

震災の経験から学ぶ

つがる市赤十字奉仕団・柏小学校が炊き出し訓練



袋に入れる水の量を確認



空気が入らないようにゴムで結ぶ



炊いたご飯を試食



米と水の入ったハイゼックスの袋をゆで釜にそっと入れる

つがる市赤十字奉仕団と柏小学校6年生合わせて約120人が9月27日、柏農村環境改善センターで災害に備え炊き出し訓練を行いました。

はじめに、同団の三橋委員長が「東日本大震災の炊き出しを教訓に学校や地域と連携した支援活動を推進していきたい」とあいさつ。訓練では、児童たちが団員と一緒に、ハイゼックス（熱に強い高密度ポリエチレン）の袋を使っただご飯の炊き方を体験し、災害への備えの大切さについて学びました。

また、日露戦争中、手製の赤十字旗で多くの命を救った青森県出身の医師、三上剛太郎のビデオも上映され、児童たちは赤十字の人道・博愛の精神について理解を深めていました。

力作287作品、防火訴え



表彰状を手に小野消防長と記念撮影

平成23年度防災作品授賞式が10月18日、市消防本部で行われました。

同本部では秋の火災予防運動（10月17日～23日）の一環として、防災に関する習字作品を募集。市内小学校から287点が寄せられ、金賞から銅賞まで優秀作品30点が選ばれました。

授賞式では入賞者に表彰状が手渡され、小野消防長が「火災予防に関心をもち、火災のないまちづくりに積極的に参加してほしい」と呼び掛けました。



作品はイオンモールつがる柏に展示された